

学習者はノダをどのように位置付けているか

名嶋義直

東北大学大学院文学研究科

1. はじめに

学習者がノダをどのように位置づけているかについて考察された研究は非常に少ない。¹

2. 質問紙調査（記名式）の概要 - 今回の発表に関連する部分 -

1) 調査内容（回答形式）

- a. ノダの意味・機能をどのように認知しているか（自由記述）
 - b. 各表面的用法のノダ文を理解できるかどうか（選択）²
 - c. 各表面的用法のノダ文を使えるかどうか（選択）
 - d. 各表面的用法のノダ文を実際に使っているかどうか（選択）
- ・ b~d の選択肢は組み合わせて回答者に提示した。

2) 調査対象者

東北大学在籍の留学生で、発表者の担当する日本語授業を受講している学生。³

3) 日時と方法：2004年1月13日～23日。授業終了時に質問紙を配布し回収（一部後日）

3. 考察

表1：調査内容 b~d（ノダ文の理解と使用に関する意識）に対する回答の集計

理解度 例文	理解不可 / 使用不可	理解可 / 使用不可	理解可 / 使用可 / 不使用	理解可 / 使用可 / 使用	計	備考
(1) 連文	0	7	12	19	38	
(2) 告白	1	8	12	17	38	
(3) 教示	1	10	15	12	38	
(4) 強調	2	8	9	19	38	
(5) 決意	2	11	11	13	37	未記入 1
(6) 命令	11	8	12	7	38	
(7) 発見	2	4	5	27	38	
(8) 想起	3	3	12	20	38	
(9) 受入	3	5	10	20	38	
(10) 整調	4	7	9	16	36	未記入 2

表2：調査内容a(「ノダの意味・機能」に関する自由記述)に対する回答の集計

本質的な意味・機能に関する記述	
前に何か状況・説明があってその後、その内容、言えること、結論をまとめる文の最後の表現	1
ある文があって、その文の後にもう1つの文が出てくる時に使う。普通は後ろの文は前の文の結果である	1
気持ちを伝えたいという「意志」のようなものが入っている。それで強調の意味も入っているし、「やってほしいという気持ち」、「やるという意志」が現れる(発表者注:「表す」の意であろうと思われる)ことができると思います	1
全部ほとんど同じ意味で文脈によって少しずつ変わる(発表者注:意味記載なし)	2
長く文法を守りながら言うことではなく、ただ縮小のために使っている	1
名詞化。動詞を名詞として使いたい時に使う	2
小計	8
表面的機能に関する記述	
意見・主張・考え・気持ちを強調する	6
「の」を付けると付けない場合よりも少し強調することになる	1
説明。先行する文に対して説明する、または、説明を求める	3
因果関係(理由)を表す	3
自分の意見を肯定したい	1
確認したり自分が言うことを主張したりする場合	1
言っていることが事実を表す。言っていることが結論であることを表す	2
堅くない、つまらなくない話を作る(発表者注:やわらげ、親密さという意味)	1
話を丁寧にする表現	1
興味が深い(発表者注:相手に対して親近感を持っているという意味)	1
何かを発見したとき(知らなかったことを知った時)または思い出したとき、 /自分の意志、または言いたいことを強調する/相手に細かい説明がほしい時(質問)、または、その質問に答える時(説明するとき)/流れのある話をする時/相手に何かをしてほしい時(命令に近い)	1
理由、つながり、丁寧。でも確かではない	1
1.理由を表す, 2.定義を説明する, 3.前の文と対照させて文章を完璧にする, 4.名詞句にする	1
ほとんど同じ意味だが推測を含んでいる(んだ・んです/のだ・のです, は同じくらい。なのでは最高の確かさ)	1

小計	24
文体やレジスターに関する記述	
話し言葉，会話で使用	2
意味は同じだが（発表者注：具体的記載なし）使い方は違う。話とか文書とか	1
「の」は「こと」より話し言葉的	1
「の」は書き言葉，「ん」は話し言葉	4
んだ<のだ（話す時使う）<んです<のです<のである（書き言葉）の順に丁寧	1
のだ，「のである」はレポート・本・論文で。書き言葉	4
のだ/んだ：口語，友達，親しい人の間のです/んです：地位の高い人に対して， のである：小論文の中で使う	1
のだ/のである（論文・レポート），んだ/んです（会話），んだ/んです（「の」 よりもっと柔らかくなる）	1
「のです」「んです」は「のだ」「んだ」より敬語	2
のだ：文語体，んだ：口語体，のです：敬語，口語体，んです：口語体，敬語， のである：文語体	1
小計	18
レベルを混同した個別割り当てに該当する記述	
「んだ」は日常会話，「のだ/のです/んです」は強調，のである（かたい，話す ときは使わない）	1
「の」は正式的な書き方，「ん」は話すときと強調したいとき	1
「のである」は論文で一般的な事実を説明するとき。のだ/んだ/んです（会話）	1
小計	3
個別割り当てに該当する記述	
のだ：強調，のである：「のだ」が本かドキュメンタリーで，んだ：納得・理解， 経験を話す，後ろに「けど」が来るとき：んだけど，んです：「んだ」の敬語。納 得・理解の時は使わない	1
のだ：強調したいとき使う，んだ：何かを思い出して使う，のです：のだと同じ が丁寧に使う場合，のである：文書に使う	1
のだ（宣言），んだ（強調），のです（論理的説明），んです（理由など），のであ る（「のです」の硬い表現	1
小計	3
合計	56

(1) 学習者の「ノダの意味・機能」に対する理解における問題点

- 1) 本質的な意味・機能と思われる回答は表面的な用法・文体的特徴を中心とした他の回答に比べ非常に少ない(回答総数 56 中 8 対 48)。
- 2) 「強調」や「説明」, 「因果関係(原因・理由)」といった代表的と思われる「個別の表面的用法」をノダの意味・機能と考えている。
- 3) 「主張」や「肯定」等の普遍的な発語内行為をノダの意味・機能として考えている。
- 4) 「親密さを示す」, 「丁寧」等の語用論的效果をノダの意味・機能と考えている。
- 5) 文体の差異をノダの意味・機能として他の表面的用法と同レベルで捉えている。
- 6) 各変異形に異なる表面的用法を 1 つずつ割り当てるという位置づけ方策が見られる。

4. まとめ

- 1) 多くの学習者はノダ文を「概ね理解できる」と考えている。
- 2) しかし, 学習者の行っている「ノダの位置づけ」には問題点が多い。
- 3) ゆえに, 学習者がノダを理解して/使用していても正しく位置づけているとは限らない。

注

1. LEE 凧子(2001)に学習者に対する調査の結果について若干の記述がある。
2. 例文として用いたノダ文の表面的な用法は吉田茂晃(1988)「ノダ形式の構造と表現効果」, 『国文論叢』15, 神戸大学文学部国語国文学会, pp. 46-55 の分類を参考とした。
3. 筆者が担当する授業は学部生向けの日本語授業であり、レベルは中上級から上級で、受講生の多くは概ねそのレベル程度の日本語能力を有していると考えられる。なお、日本語学習歴は全員 1 年以上である。国籍、および国籍別の人数は記載を省略する。有効回答は 38 件である。

参考文献

- 坪根由香里(1997)「『ものだ』『ことだ』『のだ』理解難易度調査」『第二言語としての日本語の習得研究』1, 第二言語習得研究会, pp. 137-156.
- 名嶋義直(2004)「『ノダの意味・機能』に関する『学習者のメタ文法認知』 - 東北大学留学生における予備調査の結果から - 」『日本語教育論集』13, 姫路獨協大学大学院 言語教育研究科 日本語教育コース, pp. 41-49.
- LEE 凧子(2001)「言語教育のための言語理論の応用 - 機能主義言語学と日本語教育の例 - 」, 『立命館言語文化研究』13-2, 立命館大学国際言語文化研究所, pp. 133-140.